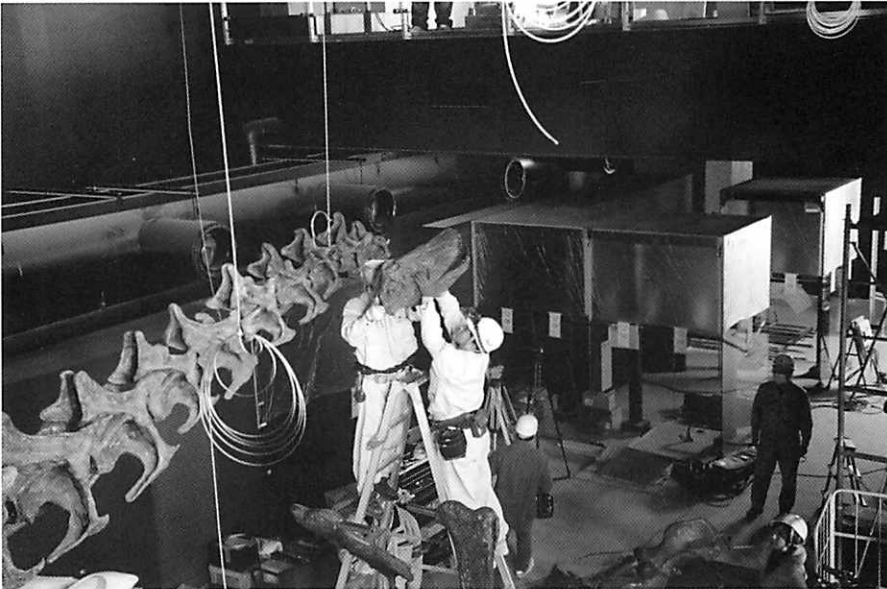


熊本地学会誌

Journal of the Kumamoto Geoscience Association

No. 168



目 次

「研 究」	
八代地域下部白亜系日奈久層北翼の層序と汽水生二枚貝化石	1-8
村上浩二	
「短 報」	
平成 26 年 10 月現在で入手している熊本市の主流地下水の硝酸性窒素の汚染	9-10
田村 実・森下吉郎	
「紹 介」	
成長する博物館：御船町恐竜博物館の歴史と活動	11-15
池上直樹	
会務報告	16-18

熊本地学会
Kumamoto Geoscience Association
2015.5.31

表紙写真

御船町恐竜博物館新館の展示工事.

写真は 2014 年に行われた御船町恐竜博物館新館常設展示室の展示工事の様子である。写真奥では展示ケースの設置作業が行われており、手前ではアパトサウルス (*Apatosaurus excelsus* (Marsh, 1879)) の全身骨格レプリカの組み立て作業が進められている。これは、1901 年にカーネギー博物館によってアメリカ ワイオミング州のアルバニー郡 (モリソン層：ジュラ紀後期) で発掘され、現在、ワイオミング大学地質博物館に展示されている標本 (登録番号 UW-15556) のレプリカである。アパトサウルスは、竜脚類の中では比較的首が太く短い草食の恐竜である。現在、本属には 3 種が知られているが、ここに展示されている *Apatosaurus excelsus* は、かつては *Brontosaurus excelsus* (ブロントサウルス) と呼ばれていた種であり、チャールズ・ギルモアが 1936 年に発表した論文の中で、No.563 C. M. として記載されている歴史的な標本である。この個体は全長 25 m に達する。

(写真：徳永義和・解説：池上直樹)